

# 平成 22 年度事業報告

(平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

# I. 平成22年度（平成22年10月1日～平成23年3月31日）の概要

## 1. 事業について

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、平成22年10月1日、旧法人（財団法人三共生命科学研究振興財団）の解散登記及び新法人（公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団）の設立登記を行い、新しい定款と諸規程のもとに事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、平成22年10月1日から平成23年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

当該期間は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入及び旧法人からの移管財産を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

尚、助成事業のうち、研究助成、海外留学奨学研究助成は、募集、応募活動過程までは、旧法人にて実施している。研究業績褒賞事業は、受賞者の決定は旧法人にて実施している。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成（旧法人時に実施済） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（旧法人時に実施済） 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞事業（うち、受賞者について旧法人時に決定済） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第27回高峰カンファレンス）

## 2. その他について

- (1) 第一三共株式会社より、平成22年12月10日、指定寄附金として、1億500万円を受領した。
- (2) 第1回理事会として、平成22年10月28日に理事及び監事全員の書面による同意を得て、選考委員選任並びに選考委員会委員選定基準の改定を行った。
- (3) 平成22年12月1日の第2回理事会において、平成22年度（平成22年10月1日から平成23年3月31日まで）事業計画及び収支予算書並びに旧法人の平成22年度（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）事業報告及び決算報告書の承認を得た。
- (4) 平成22年12月13日の第1回評議員会（臨時）において、旧法人の平成22年度（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）事業報告及び決算報告書の承認を得た。
- (5) 平成22年12月24日に文部科学省に旧法人の平成22年度事業報告及び決算報告書の届出を行った。
- (6) 平成23年2月9日の第3回理事会において、平成23年度事業計画及び収支予算書の承認を得た。同事業計画及び収支予算書を平成23年2月28日に内閣府に提出した。
- (7) 新法人登記以降、当法人の理事、監事、評議員、選考委員、研究業績褒賞審査委員及び職員の変更はなかった。
- (8) 公益財団法人への移行に伴い、各種規程の整備・制定、各種マニュアルの作成を行うとともに、組織の内部統制の強化を図った。

## Ⅱ. 平成22年度（平成22年10月1日～平成23年3月31日）事業報告

### 1. 平成22年度（平成22年10月1日～平成23年3月31日）事業の概要

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	61,000千円	平成21年度 @100万円×28件 平成22年度 @100万円×33件
	海外留学奨学研究助成 (定款第4条-4)	9,000千円	平成21年度 @50万円×3回×2件 平成22年度 @50万円×3回×4件
	その他助成事業費	13,457千円	
	助成事業計	83,457千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	11,661千円	
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	6,732千円	第27回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	5,134千円	
	研究業績褒賞事業計	23,527千円	
	合計	106,984千円	

## 2. 助成事業（公1）

### (1) 研究助成（定款第4条－1）

- a. 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- b. 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- c. 募集規模
  - ① 1件当たり200万円とする。（助成期間は、2年間）
  - ② 採択数：33件、別添資料－1に掲載（平成22年度当該助成採択者参照）
- d. 募集方法  
当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。
- e. 応募方法
  - ① 理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当法人の理事・評議員・名誉理事、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、推薦要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。
  - ② 応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。
  - ③ 推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、公正かつ適正に選定した。
  - ④ 応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当法人に送付した。
  - ⑤ 応募受付期間：平成22年4月1日～平成22年5月31日
  - ⑥ 平成22年度の応募数：175件
- f. 選考過程：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、第2回理事会にて33件の助成対象者を決定した。
- g. 研究成果の公表
  - ① 助成者は、助成期間終了後、研究論文を当法人に提出する。
  - ② 助成者の研究論文を基に、第一三共生命科学研究振興財団研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、平成20年度研究助成並びに三共“フェローシップ”奨学研究助成の成果の論文について、当該研究報告集Vol.26として、平成22年10月31日に発刊した。
  - ③ 助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載する。

### (2) 海外留学奨学研究助成（定款第4条－4）

（旧称：三共“フェローシップ”奨学研究助成）

- a. 概要：従来の当該助成では、国内留学も留学対象に含めてきたが、若手研究者の国際的学術交流を深化させるため、対象を海外留学とした。

b. 募集対象

- ① 原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
- ② 海外の大学等研究機関において研究に従事することを計画している者。

c. 募集規模

- ① 1件当たり600万円とする。(助成期間は、2年間)
- ② 採択数：5件、別添資料-2に掲載(平成23年度当該助成採択者参照)

d. 募集方法

当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。

e. 応募方法

- ① 応募方法は、「研究助成」と同一。
- ② 応募受付期間：平成22年4月1日～平成22年5月31日
- ③ 今年度の応募数：17件

f. 選考過程

- ① 理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定
- ② 選考委員会により、内定候補者の面接を実施し、最終内定者を決定した。
- ③ 第2回理事会にて5件の助成対象者を決定した。

g. 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

### 3. 研究業績褒賞事業（公2）

#### (1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

- a. 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在、活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。
- b. 褒賞名：高峰記念第一三共賞
- c. 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。
- d. 推薦方法
  - ① 理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・名誉理事、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した。
  - ② 推薦期間：平成22年1月15日～平成22年2月28日

③ 今年度の推薦数：13件

e. 選考方法

① 第一次選考：選考委員会により応募候補者の選定を行った。

② 応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

③ 最終選考

高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

④ 平成22年6月11日に開催された旧法人における理事会において、褒賞受賞者を決定した。

⑤ 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、プレスリリースを実施した。

f. 受賞者及び受賞テーマ

① 受賞者：河岡義裕博士（東京大学医科学研究所教授）

② 受賞研究テーマ：「インフルエンザ制圧に関する研究」

g. 褒賞の方法および贈呈

① 賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

② 贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成23年2月9日、場所：東京會館）。

③ 贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

a. 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

b. 名称：高峰カンファレンス

c. 開催の内容

① テーマ：「最先端のウイルス研究」

② 開催時期：平成23年2月18日

③ 開催場所：東京會館

④ プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演。

i) 記念講演

座長：杉村隆先生（元国立がんセンター総長）

演者：河岡義裕教授（東京大学医科学研究所）

演題：パンデミック・インフルエンザ

ii) 講演

座長：河岡義裕教授（東京大学医科学研究所）

演者1：松浦善治教授（大阪大学微生物病研究所）

演題：C型肝炎ウイルスの増殖と病原性発現に關与する宿主因子

演者2 : 柳 雄介教授 (九州大学大学院医学研究院)

演題：麻疹ウイルス感染のマウスモデル

演者3 : 満屋裕明教授 (熊本大学大学院生命科学研究部)

演題：構造に導かれたAIDS治療薬の研究・

開発：成功と挑戦

iii) 応募方法及び出席者数：募集期間を設定し、高峰カンファレンスのテーマに關連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、79名の参加者を得た。

iv) 開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

平成22年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に關する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。

以上

### Ⅲ. 別添資料

[別添資料-1]

#### 第27回平成21年度研究助成

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
足立 弘明	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科・特任講師	ポリグルタミン病モデルにおけるimmunophilin高発現の効果
伊村 明浩	京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座・助教	$\alpha$ Klotho発現組織に着目した新規ミネラル関連分子群の総合的解析
岡澤 均	国立大学法人 東京医科歯科大学 難治疾患研究所神経病理学分野・教授	DNA修復タンパクの神経細胞導入による神経変性疾患治療
萩 朋男	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・助教	放射線DNA損傷の新たな修復メカニズムの解明と放射線誘発がん予防のためのリスク評価
片桐 豊雅	徳島大学 疾患ゲノム研究センター ゲノム制御分野・教授	新規分裂期キナーゼによる乳がん細胞分裂期制御機構の解明
片山 勉	九州大学大学院薬学研究院・教授	新規DNA複製開始因子DiaAを標的とした狭域スペクトル抗菌剤創薬基礎研究
北村 忠弘	群馬大学 生体調節研究所・教授	2型糖尿病における $\beta$ 細胞障害の分子メカニズムの解明～新しい作用機序の糖尿病治療薬の開発を目指して～
熊谷 直哉	東京大学大学院薬学系研究科・助教	触媒的不斉4置換炭素構築反応を駆使するC型肝炎ウイルス（HCV）増殖抑制剤群の短工程合成
幸谷 愛	東京大学医科学研究所先端医療研究センター分子療法分野/血液腫瘍内科・助教	慢性骨髄性白血病における腫瘍進化、薬剤耐性に対する新奇治療を目指した基礎的研究
小早川 令子	(財)大阪バイオサイエンス研究所・室長	社会コミュニケーション反応を特異的に制御する神経メカニズムの解明
坂根 郁夫	千葉大学大学院理学研究科生体機能化学研究室・教授	インスリン受容体情報伝達のジアシルグリセロールキナーゼによる制御の分子機構
清野 研一郎	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター・准教授	新しい再生医療へ向けた新規細胞の作製ーガンマデルタAPCに関する研究ー
竹内 純	東京工業大学グローバルエッジ研究院・助教	islet1陽性心臓前駆（幹）細胞を制御する上流因子の単離と細胞株の樹立
竹島 浩	京都大学大学院薬学研究科・教授	TRICチャンネルと不整脈
立石 敬介	東京大学医学部附属病院・消化器内科・助教	エネルギー代謝調節システムとしてのヒストンコード制御系の分子基盤解明
田中 知明	千葉大学附属病院 細胞治療学・助教	がん幹細胞・iPS細胞制御における新規創薬基盤創出を目指したクロマチン制御機構の解明
田ノ上 拓自	神戸大学大学院医学研究科・特命助教	極性上皮様細胞の形状変化におけるアクチン骨格系制御機構の解析
田村 宏治	東北大学大学院生命科学研究科・教授	器官形態再生幹細胞の未分化性を創出するエピジェネティック遺伝子制御
直江 吉則	国立長寿医療センター研究所老化機構研究部免疫研究室・室長	加齢に伴う免疫低下メカニズムの解明



氏名	所属機関・職名	研究課題
中岡良和	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学・特任助教	Angiopoietin-1/Tie2 シグナル経路による心臓組織保護の分子機構
中島欽一	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授	胎生期HDAC阻害剤暴露による成体マウス行動解析と行動異常原因解明
西村智	東京大学医学系研究科循環器内科・システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点・特任助教	生体内分子細胞イメージングによる慢性炎症を背景とした生活習慣病の病態解明
沼田倫征	独立行政法人産業技術総合研究所生物機能工学研究部門・研究員	tRNAのアンチコドン修飾メカニズムの分子基盤解明
廣田俊	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科・教授	タンパク質における初期凝集体生成メカニズムの解明
堀家慎一	金沢大学フロンティアサイエンス機構・特任助教	発達障害スペクトラムの原因遺伝子機能からとらえる発症機序の多角的解析
松沢厚	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室・准教授	生理的メディエーターとしての活性酸素シグナルの受容-応答分子機構の解明
南川典昭	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授	ケミカルアプローチによるRNA干渉発現の分子認識機構の解明
吉田清嗣	東京医科歯科大学難治疾患研究所・准教授	がん抑制遺伝子P53による転写制御とアポトーシス誘導機構
吉田裕樹	佐賀大学医学部感染免疫学・教授	原虫感染に対するCARD9を介した新規自然免疫活性化経路の解析
脇裕典	東京大学大学院医学系研究科分子エネルギー代謝学、糖尿病・代謝内科・特任助教	エピジェネティクスによる脂肪細胞分化制御因子PPAR $\gamma$ 発現制御機構の研究

第28回平成22年度研究助成

33件（交付金:1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
青木浩樹	久留米大学循環器病研究所・准教授	大動脈瘤におけるマクロファージの機能制御と特異的サイトカイン療法の開発
池谷裕二	東京大学大学院薬学系研究科・准教授	脳血管障害の新規なシステム薬理的評価系の構築
井上邦夫	神戸大学大学院理学研究科生物学専攻・教授	癌化に伴う新規の異常スプライシング機構の解明
大木理恵子	国立がん研究センター研究所細胞増殖因子部・研究員	新規がん抑制遺伝子PHLDA3によるがん遺伝子Aktの抑制機構の解明
大塚文男	岡山大学病院内分泌センター・准教授	卵巣機能制御の新しい分子BMP:その活性の発現機序と医療への応用
岡浩太郎	慶應義塾大学大学院理工学研究科・教授	神経ガイダンスを司る細胞内情報伝達過程の可視化とその光制御
岡崎拓	徳島大学疾患ゲノム研究センターゲノム機能分野・教授	自己抗体産生制御メカニズムの解明
加藤裕教	京都大学大学院生命科学系研究科生体システム学分野・准教授	大脳皮質神経前駆細胞の増殖を制御する分子機構の解明
金子修	長崎大学熱帯医学研究所原虫学分野・教授	マラリア原虫感染赤血球内タンパク質輸送機構の分子基盤
川口寧	東京大学医科学研究所感染症国際研究センター・ウイルス学分野・准教授	ウイルスキナーゼおよびウイルス粒子成熟過程を標的とした新規抗ウイルス剤の開発
川崎善博	東京大学分子細胞生物学研究所分子情報研究分野・講師	大腸癌幹細胞の発生・維持に関わる機構の解明
北村浩	名古屋市立大学大学院医学研究科病態モデル医学分野・准教授	マクロファージの新しい膜型キナーゼLAM27の炎症応答における役割とその分子メカニズムの解明
清中茂樹	京都大学大学院工学研究科・助教	新規カルシウムチャンネルに関するケミカルバイオロジーと創薬への応用
小泉修一	山梨大学大学院医学工学総合研究部・医学学域・薬理学・教授	グリア細胞プリン作動性シグナルによる視神経機能制御に関する研究
後藤英仁	愛知県がんセンター研究所発がん制御研究部・室長	新規Chk1リン酸化反応の制御機構およびその生理機能の解明
後藤佑樹	東京大学大学院理学系研究科・助教	オキサゾール骨格を含む有機化合物ライブラリーの翻訳合成と新規podoplanin阻害剤の開発へ向けたその応用
齋藤敦	宮崎大学医学部解剖学講座分子細胞生物学分野・助教	小胞体ストレス応答による生体制御の分子機構解明
坂本浩隆	岡山大学大学院自然科学研究科・准教授	代謝型グルタミン酸受容体サブタイプ7遺伝子欠損マウスを用いた脊髄レベルにおける雄性機能の神経制御メカニズムの解明
笹田哲朗	久留米大学医学部免疫・免疫治療学講座・准教授	上皮間葉移行（EMT）を標的とした新しい免疫療法の開発
清水律子	東北大学大学院医学系研究科分子血液学分野・教授	GATA2による血球の運命決定機構とその破綻による白血病発症メカニズムの解析

氏名	所属機関・職名	研究課題
白川 龍太郎	東北大学加齢医学研究所基礎加齢研究分野・助教	RalGAPの制御機構の解明とその異常の解析
高橋 智聡	金沢大学がん研究所腫瘍分子生物学研究分野・教授	がん幹細胞標的薬の探索を目指したin vitroがん幹細胞モデル系の開発
高橋 将文	自治医科大学分子病態治療研究センターバイオイメージング研究部・教授	心血管疾患における初期炎症惹起の分子的機序の解明とその治療への応用
寺内 康夫	横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学・教授	高脂肪食長期負荷による肝細胞癌発がんモデル動物の樹立とその分子機構の解明
中島 利博	東京医科大学医学総合研究所・教授	E3ユビキチンリガーゼ シノビオリンによる臓器線維化発症の分子メカニズム
秦野 伸二	東海大学医学部基礎医学系分子生命科学・准教授	ゲノム部位特異的遺伝子導入法を用いた新規筋萎縮性側索硬化症モデル動物の作出と解析
原田 彰宏	大阪大学大学院医学系研究科細胞生物学講座・教授	インスリン分泌や感受性を司る遺伝子の欠損マウスの作製解析によるインスリン分泌や感受性の分子機構の解明
疋田 貴俊	大阪バイオサイエンス研究所システムズ生物学部門・研究員	大脳基底核神経回路の制御機構の解明
丸山 博文	広島大学原爆放射線医科学研究所分子疫学研究分野・准教授	筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価
南 敬	東京大学先端科学技術研究センター・特任准教授	内皮エピゲノム転写調節機構の包括的解明に基づく抗血管疾患へのアプローチ
南野 徹	千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学・講師	老化からみた生活習慣病治療の開発
安友 康二	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授	炎症応答を制御するNotchシグナルの分子基盤の解明
吉田 秀郎	兵庫県立大学大学院生命理学研究科・教授	ゴルジ体ストレス応答を制御する転写因子TFE3とMLXの発現・活性調節機構の解析

**第24回（平成21年度）三共“フェロシップ”奨学研究助成採択者  
3件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）**

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
今井 祐記*	大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科学教室 Duke University Medical Center 米国	アンドロゲン受容体の骨組織における高次機能解明
作石 かおり	国立精神・神経研究センター Harvard Medical School Brigham Women's Hosp. 米国	中枢神経系における炎症機序の解明
鷹見 洋一	大阪大学大学院医学系研究科 老年・腎臓内科学 Case Western Reserve U. CV Res.Ins. 米国	動脈硬化における単球/マクロファージでのKLF (Kruppel-like factor) 2による炎症調節機構

\*平成22年4月6日付帰国（今会計期間における費用の発生は無し）

**第25回（平成22年度）三共“フェロシップ”奨学研究助成採択者  
4件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）**

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
桑原 知樹	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野・特任研究 Columbia University Medical Center 米国	iPS細胞由来ドパミンニューロンを用いたパーキンソン病の神経障害機構に関する研究
島田 和之	名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学・客員研究者 University of Southampton School of Medicine 英国	抗体療法を併用した化学療法の相乗的治療効果にかかわる分子基盤解析
西 良太郎	神戸大学自然科学系 先端融合研究環バイオシグナル 研究センター・助教 Wellcome Trust/Cancer Research UK Gurdon Institute, University of Cambridge 英国	Identifying and characterizing new posttranslational modifications that control DNA double-strand break signaling or repair in mammalian cells.
西 晶子 (堀)	独立行政法人 理化学研究所 吉田科学遺伝学研究室 研究生 横浜市立大学 共同研究員 Cancer Research UK London Research Institute 英国	神経細胞突起における微小管形成とミトコンドリア機能の解析

第26回（平成23年度）海外留学奨学研究助成採択者

5件（交付金：1件 300万円/年、2年交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
伊藤保志	岐阜薬科大学薬効解析学研究室 大学院生 Department of Cell Biology, Harvard Medical School 米国	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する新規治療法の確立
岩井玲奈	東京大学大学院医学系研究科 大学院生 Columbia University 米国	網膜個性決定と立体視神経回路の形成における網膜色素上皮の分子機能
土屋淳紀	新潟大学医歯学総合病院消化器内科（第三内科）医員 MRC/University of Edinburgh Center for Inflammation Research 英国	肝組織幹前駆細胞をターゲットとした新しい肝再生医療及び肝細胞癌に対する治療開発を目指して
中川勇人	東京大学医学部附属病院消化器内科 医員 University of California, San Diego 米国	メタボリック症候群関連肝発癌におけるIKK/NF-kappaBの役割
三吉範克	大阪大学医学部附属病院消化器外科 医員 Massachusetts General Hospital & Harvard Medical School 米国	多能性幹細胞の誘導と臨床応用のための開発研究とくに腫瘍化に関わる遺伝子発現解析についての研究